
星降る薔薇園のジンクス

藤畑 凜子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星降る薔薇園のジンクス

【Nコード】

N0893Y

【作者名】

藤畑 凜子

【あらすじ】

”上”から”中”へ『落とされた』天使、メルフィは天原 和音という人間として慎ましく(?)過ごしていた。しかし”下”から”中”へ『上げられた』悪魔、地戸 椛とひよんな事から出会ってしまい…物語は、加速する。

暴走する妖獣、契約、そして弱まる”星の力”とは?さらに『彼ら』も現れ、過去までもが複雑に絡まり合う糸の中に、2人は巻き込まれて行く…!!!

"上";ノ国（前書き）

いきなり『落とされ』ます。うわー。

"上";ノ国

――^{だいてんし}大天使メルフィ。

…はい。

――そなたは罪を犯した。そしてその罪は重い。…分かっておるな？

…承知しております。

――ならばよい。…判決を下そう。我がそなたに。そなたは…。

……。

――…有罪じゃ。全員一致で、な。…いや、一人を除いて、か。

……！！

――分かるな？あやつはそなたを慕っておるのだ。例え皆に批判されたとしても。

…サーラン…。

「……しかしほぼ全員一致となれば我はどうすることもできん。よってメルフィ、そなたへ処罰を言い渡す。大天使の地位を剥奪し……翼を、^も？ぐ。

「……そ、そんな！？アリエラ様、それだけは！！我ら天使は翼が無ければ死んだも同然！お願いします、それだけはお許しください！」

「……メルフィ、これは罰なのだよ。罪を犯せば、それ相應の罰が下る。賢いそなたなら、分かっているだろう……？」

っ
しかしそれは……あんまりです……。

――……。衛兵、罪人を連れてゆけ。翼を？ぎ、中へ。

落とす』のだ。

！あ、アラリエラ様っ！お許しを！いやっ、触らないで！…アラ
リエラさまあああああああああああ！…！！！！！！

ー……すまない、メルフィ。私の可愛い愛し子よ。どうかそなた
に、星のご加護を…。

"下"ノ国（前書き）

今度は悪魔の方。下から追放されるので、『上げる』になっています。

"下"ノ国

――悪魔長^{あくまぢやう}、ガスケット。

…ああ。

――…なんだその顔は。全く…、罪人になってもお前の態度は変わらないようだな。

当たり前だ。んなもん何で俺が気にしなきゃなんねーんだよ。

――…何で俺が…か。…我はお前のそういうところは、気に入っていたんだがな…。

ふん、ご愁傷様だな。お前は相変わらず人を見る目がない。ざまーみやがれ。

――…っお前、…はあ…。お前の相手は本当に疲れる…。さっさ

と終わらせるぞ。

はいはい。

――お前の判決は有罪。勿論全員一致だ。

は、俺ってそんなに嫌われてんだなア。さーみーしー。

――ふざけるなよ、ガスケット!!!

…くっくっ。口調が戻ってんぜ？ザルエサル殿。

――っ本当にお前は…最悪だな。

お褒めの言葉をありがとよ、ふん。

――…ガスケット、お前の処分を言い渡す。

あいよ。

――悪魔長の地位を剥奪、そしてお前が持つ全ての魔力を没収する。

っはあ！？正気かよ、ザルエサル！！！

――我の名を呼び捨てるでない、罪人。

っは。魔力奪って”中”に『上げる』ってか？冗談じゃねえぞ。

――すでに決定事項だ。改竄かいざんの余地はない。…衛兵。

チツ、くそつたれが…！！！覚えてろよ、ザルエサル。絶対に、許さねえからなああああああああ！！！！！！

――やれやれ、あの横着者もこれで少しは大人しくなるかな。
……
ガスケット、せめてお前に……星のご加護を。

罪深き天使 - 1

ざわめく周囲はもはや騒音としか言いようがない。その上鼻につく香りで空気は淀んでいる。

…いつものことながら最悪だわ。

「天原様あつ！」

「キヤア！今日もお美しいわねー…！」

「和音様…！！」

悲鳴のような声を上げて叫ぶ周りの女子達に、私は得意のにつくり天使のスマイルをお見舞いしてあげた。

心の中では、（うるさいわね、耳障りだわ）と思っているのだけれど、そんなことはおくびにも出さない。私はそんなドジじゃない。

天原 あまはら 和音 かずね 星薔薇学園女子高等部2年の生徒。学校一の秀才でその上美少女。…それが、私。

「きゃーっ！！和音様が微笑んでくださったわぁ！！！！」

さらに大きくなってしまった嬌声に、自業自得とはいえ「はぁ……」
とため息をつくしかなかった。

私の平穩は、どこにあるのかしらね……。

教室にいても何処にいても、うるさくて落ち着けやしない。私は仕方なく重い腰を上げ、屋上へ居座ることにした。

屋上のフェンスにもたれながら、空を見上げる。今日も空は青い。
でも私が思いを馳せるのは、その空の向こうに存在するはずの”上”
”ノ国”。

一ヶ月前、私はとある罪を犯した罪人となり、”上”ノ国から追放された。翼を？ぎ取られ、ここ、”中”ノ国へと『落とされた』のだ。

…”上”ノ国は変わりないだろうか…。

サーラン。私の大切な妹。落とされる前、牢獄に入れられていた私を人目も憚らず会いに来てくれた。

「メルフィ様！サーランはメルフィ様のことを忘れません！貴女様が私にしてくださいったことを、わすれるようなことはいたしません！絶対に、貴女様が戻ってこられるようにしますから、ですからどうか、ご無事で…」

目に大粒の涙を浮かべながら、『落とされる』私を見送ってくれたサーラン。元気、かしら。一人で泣いてはいないかしら…。

あの子は昔から、泣き虫だったから。

しばらくサーランを思い出しながらボーッとしていると、授業の始まりを告げる鐘が鳴り、私は我に返った。

授業は…サボっちゃおう。面倒だし。

罪深き天使 - 1 (後書き)

かなりの人気者の和音です。

とりあえずいけるとこまで更新します。

…せめてもの慈悲と、アラリエラ様は『落とす』際、私に大量のお金と住む場所を与えてくださった。その後は自分の”魔力”を使い、この星薔薇学園の理事長の孫になりすまし、入学。戸籍等もしつかり偽物を用意した。

そういうわけで、私は実年齢2567歳にして人間の高校生と同じように生活しているのだ。既に知っていることを教えられるのは至極面倒だけれど、仕方が無い。保護される立場にあり、最も自由な時期は高校に通っている時だから。

理事長の孫という特権もあり、授業にあまりでなくても怒られないし、どんな場所も出入り自由。

初めは小言を言っていた先生方も、私の類稀なる頭脳―自分だけのものなんだけれど―は認めてくれたみたいで、今はもう何も言っていない。

…という設定になっている。

実は私が来る前の記憶を少し弄らせてもらった。だから全員、私は一年の時から在学していると思ってるのよね。

ふふふ、”魔力”って便利よね…（黒笑）

「和音！」

その時、背後から声がかかって振り返るとそこには一人の少女が満面の笑みを浮かべて立っていた。

「おはよう、和音」

「…おはよう、蓮奈^{れんな}」

蓮奈には、さつき私の周りを囲んでいた女子達の向けていた作り笑顔とは違う、本当の笑顔を見せた。

蓮奈は私が唯一心を許せる人間。ここに『落とされ』てずっと不機嫌そうな顔で過ごしていた私に、本当にしつこいくらい付き纏ってくれていて、一度は冷たく突き放したんだけど…それでもめげずに絡んでくるから、私も折れちゃったのよね。

でもそれから蓮奈と過ごすようになってしつかりと彼女を見て、「この子なら信用できる」って思ったから…今では親友に近いポジション、かな。照れるから本人には言わないけれど。

でも勿論、『天原 和音』が”天使”だってことは、知らない。

「もー、教室来ないと思ったらやっぱりここにいたんだ」

「だって屋上、気持ちいいじゃない」

…それに、誰も来ないしね。

そう呟くと、なるほど、そっちが本音か、と苦笑された。

罪深き天使 - 2 (後書き)

とりあえず今日はここまでです。

蓮奈登場までこれたのでまあいいかと思えます。それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0893y/>

星降る薔薇園のジnkス

2011年10月31日15時13分発行